

国勢調査から見る 多摩地域の人口と姿

二〇一五年一〇月、第二〇回国勢調査が実施されました。五年に一度、その日、日本国内に住んでいるすべての人に対して行われる調査です。既にその調査をもとに、二〇一六年二月、統計学にもとづく抽出調査の結果が公表されていましたが、一〇月下旬に全体の集計にもとづく「人口等基本集計結果」が公表されました。それによる多摩三〇市町村の人口と、長期的に多摩地域の人口の変化をとらえるために、第一回、六回、一一回、一六回と今回（二五年ごと、最後は二〇年ごと。敗戦直後の第六回は変則的なので注意）の国勢調査による人口を抜き出してまとめたのが表1（24・25ページ）です。

多くの自治体はこの九五五年の間に合併等で変化していますが、基本は現市町村域の人口を出したものです（詳しくは注記をお読みください）。

ここ数年、日本の人口減少が問題となつていますが、この表から読み取れること、そしてその背景にあることを見ながら、多摩地域の人口の特徴を考えてみましょう。

1. 異常な人口増の一世紀

一九二〇年から二〇一五年までの九五五年間で、日本全国の人口は約二・三倍ほど増

えました。既にそれ以前、明治半ばごろから人口の伸びが顕著になりましたが、東京都はこの九五五年間を見れば三・六倍と、全国よりも高い伸び率になりました。とはいえ、一般的に言って大都市では出生率が低い傾向にあります。参考として、現在全都道府県で最も人口の少ない鳥取県を挙げていますが、こうした地域からの移住によって人口を吸い上げる形で、東京の人口が伸びたわけです。

この九五五年間で、多摩地域の人口は一三倍以上に膨れ上がったという驚くべき数値が、東京一極集中を支えてきたことがよくわかります。特に、多摩市や三鷹市など、三〇倍を超える市があり、二〇倍以上の市がザラにあるということは、生活環境の激変があつて初めて可能になったわけです。しかも同じ多摩地域でも、檜原村（〇・四一倍）、奥多摩町（〇・五五倍）のように、この間大きく人口を減らしている地域も存在します。

表2（次ページ）をご覧ください。表1（24・25ページ）でとりあげた年における東京都、多摩地域、そして全国の市町村数です。この間、昭和の大合併、平成の大合併で、全国の自治体数は激減してきました。

一八九三（明治二六）年に神奈川県から三多摩（北多摩郡、南多摩郡、西多摩郡）が

東京に編入され、一九二〇年の時点では多摩地域には八一市町村がありました。それが現在三〇市町村にまで減っています。とはいえ、平成の大合併で合併したのが西東京市だけですので、全国に比べると市町村数の減少は抑えられています。

2. 一九二〇年、第一回国勢調査の頃

表3は、一九二〇（大正七）年時点での市町村における、多摩地域の人口ランキングです。特に少ない方は、耳慣れない名前の村が並んでいます。この頃までは、現在の昭島市域やあきる野市域などで、これだけ小規模の村が残っていたことがわかります。また、表1（24・25ページ）の現在の市町村域を見てみると、青梅やあきる野、奥多摩など西多摩や、八王子の人口規模が大きかったことがよくわかります。これは養蚕や製糸業、絹織物など、地域に根差した産業がしっかりとあったことのあらわれと言えます。また、府中や日野など、江戸時代以来の宿場町にも人口が集まっていた。表4にあるように、八王子を含めた南多摩が、北多摩よりも人口が多かったのです。

ちなみに、一九二〇年の国勢調査を見る

と、今と大きく異なる点として、「国籍民籍別人口」という表などに「植民地人」（朝鮮、台湾、樺太、南洋）というカテゴリーが出て来て、当時の大日本帝国が植民地を持つ国家だったことがここからうかがえます。

3. 戦争による変化

（データ多摩17-a, b 『緑の風』
二〇一三年八月号もご参照ください）

一九四五年は敗戦の混乱や、占領体制への対応という中で、国勢調査は行われませんでした。そのため、四七年に臨時調査を実施しました。

一九二〇年と四七年を比べると、大きな変化が起きているのがよくわかります。実際のところ、一九二三年の関東大震災と都市部の復興に伴い、東京の郊外が拡大し、今に続く東京都心部の「郊外」としての多摩地域という位置づけが生まれてきたのです。都市の編成の仕方が変わり、地域独自の産業があることで栄えるよりも、都心からのアクセスがいいところが栄える、という形に変わるわけです。武蔵野や三鷹、小金井など、北多摩地域の人口が急激に伸びていることはそれを意味します。

この時期、郊外の拡大が多摩地域にもた

表2 東京都、多摩地域、全国の市町村数の変化

	東京都(府)	うち多摩地域	全国
1920年	2市36町165村	1市7町73村	83市1365町10796村
1947年	23区4市18町65村	2市19町43村	214市1784町8511村(※1)
1970年	23区23市10町9村	22市8町2村	579市2013町684村
1995年	23区27市5町8村	27市3町1村	663市1994町577村(※2)
2015年	23区26市5町8村	26市3町1村	791市745町183村

※1 全国の数値は、国勢調査(10月1日)時点ではなく、同年8月の地方自治法施行時点の数値(総務省ウェブサイトより)

※2 全国の数値は、国勢調査時点ではなく、同年4月の「市町村の合併の特例に関する法律の一部を改正する法律施行」時点での数値(総務省ウェブサイトより)

らしたもう一つの変化が、軍事施設と軍需工場の進出です。一九四〇年、立川市が多摩地域で二番目に市制を敷き、また、一九四七年時点で昭島市域での人口の伸びが大きいのは、一九二二年に立川飛行場ができ、

航空関連の産業が集まってきたことが背景にあるのです。

大きな流れで見たときに、一九二〇年から四七年の変化にはこうした特徴がありますが、一九四七年の特殊事情として、疎開の問題があります。表4を見ると、都心へのアクセスのよい北多摩の人口の伸びが圧倒的ではありますが、都市化が遅れたがゆえに空襲の少なく一次産業の盛んな地域の人口の伸びも比較的多いのは、戦争末期、都心から疎開による人口流入も多かったためです。

4. 一九七〇年以降

経済史の分野で一般的に高度経済成長は一九五五年から始まったとされ、オイルショックの一九七一年ごろまでの急激な経済成長を指します。多摩地域全体でみると、全国や都全体よりも激しい人口増加が起きています。それだけ、高度成長で主に製造業のための若い労働力を中心にした地方からの人口流入が激しかったわけです。既に都市化がある程度進んでいた二三区だけではとてもこれだけの人口流入を支えることはできなかつたわけで、多摩地域が高度成長を支えたことがよくわか

ります。それは同時に、今に至る東京一極集中の受け皿となったことも意味します。これを裏返すと、多摩地域の人口の多くは、もともと他の道府県（ないし都の区部）からやってきた人で占められてきたという点でもあります。

バブルのはじけたあとの九五～九五年ごろには、既に人口増のピークに近づいており、一九九五～二〇一五年の二〇年間は、かつてのような急激な人口増はほぼ見られませんが、いくつかの自治体では既に減少局面に入っています。全国の人口増が止まっているので当然のことですが、今までの数十年間が異常でいびつな人口増であったことを私たちは受け止めるべきでしょう。全国各地と

表3 1920年時点の多摩地域の市町村(当時)の人口の順位

	上位	人口	現在の市町村域
1	八王子市	38955	八王子市
2	青梅町	7960	青梅市
3	東村山村	7798	東村山市
4	村山村	7165	武蔵村山市
5	小宮村	6336	八王子市

	下位	人口	現在の市町村域
1	築地村	183	昭島市
2	原小宮村	208	あきる野市
3	上川原村	233	昭島市
4	田中村	320	昭島市
5	宮沢村	443	昭島市

表4 三多摩の人口の変化

		1920年	1947年	1970年	1995年	2015年
人口	北多摩	109399	432499	1697757	2142157	2394732
	南多摩	118548	210527	616072	1241344	1430411
	西多摩	88156	141520	220033	390413	390897
指数 1920年 =100	北多摩	100	395	1552	1958	2189
	南多摩	100	178	520	1047	1207
	西多摩	100	161	250	443	443

北多摩：立川、武蔵野、三鷹、府中、昭島、調布、小金井、小平、東村山、国分寺、国立、狛江、東大和、清瀬、東久留米、武蔵村山、西東京
 南多摩：八王子、町田、日野、多摩、稲城
 西多摩：青梅、福生、羽村、あきる野、瑞穂、日の出、檜原、奥多摩

人口の「奪い合い」をするのではなく、お互いに、自分の暮らしたところでも暮らしていける社会をつくっていく方向に、舵を切っていくべきところに来ているのではないのでしょうか。

最近の人口の変化と、将来人口の推計については、次回(以降)詳しく取り上げていく予定です。

人口の指数 (1920年=100)						
1920年	1947年	1970年	1995年	2015年		
100	153	322	640	734	1	八王子市
100	590	1172	1581	1765	2	立川市
100	1287	2778	2739	2935	3	武蔵野市
100	886	2720	2895	3265	4	三鷹市
100	157	214	415	415	5	青梅市
100	341	1356	1797	2163	6	府中市
100	561	1283	1820	1892	7	昭島市
100	358	1827	2304	2658	8	調布市
100	213	859	1526	1830	9	町田市
100	506	2443	2827	3140	10	小金井市
100	280	2264	2850	3131	11	小平市
100	282	1209	2043	2286	12	日野市
100	219	1238	1733	1923	13	東村山市
100	355	1760	2291	2658	14	国分寺市
100	431	2287	2555	2821	15	国立市
100	280	754	1222	1161	16	福生市
100	345	2251	2787	2995	17	狛江市
100	234	920	1522	1697	18	東大和市
100	287	1684	2186	2428	19	清瀬市
100	180	1695	2413	2533	20	東久留米市
100	150	576	935	994	21	武蔵村山市
100	179	739	3603	3567	22	多摩市
100	235	778	1585	2212	23	稲城市
100	160	446	1078	1092	24	羽村市
100	148	233	389	418	25	あきる野市
100	361	2149	2601	2971	26	西東京市
100	159	233	432	441	27	瑞穂町
100	151	156	296	309	28	日の出町
100	123	93	66	41	29	檜原村
100	155	123	87	55	30	奥多摩町
100	254	815	1215	1357		多摩地域計
100	117	100	97	80		島しょ計
100	124	263	237	276		現23区計
100	135	308	318	365		東京都計
100	129	125	135	126		鳥取県(参考)
100	140	185	224	227		全国

注記

- ・各年の国勢調査による。それぞれ10月1日時点の人口。1920年は東京府。以下の表すべて同じ。
- ・1920年の多摩地域(北多摩郡)には、千歳村、砧村(現世田谷区)が含まれている。表4も同じ。
- ・1947年の東京都総計は、同年9月の水害による調査漏れに対する補正調査の結果を含んでいる。
- ・1947年の島しょには、米軍政下の小笠原が含まれていない。
- ・市町村合併があった場合、合併前の市町村人口を合計して現在の市町村域の人口を算出している。ただし市町村内の一部地域のみ編入については、正確な算出が難しいため、合併前の人口には反映されていない。(例)現在の稲城市には、1949年に多磨村(現府中市)の一部が編入されたが、編入前の多磨村の人口はすべて府中市の人口として計算している。

表1 国勢調査による多摩地域の人口(抜粋)

		国勢調査人口					2015年	
		1920年	1947年	1970年	1995年	2015年	人口密度 (人/km ²)	面積(km ²)
1	八王子市	78705	120520	253527	503363	577513	3098.6	186.38
2	立川市	9987	58923	117057	157884	176295	7237.1	24.36
3	武蔵野市	4931	63479	136959	135051	144730	13181.2	10.98
4	三鷹市	5725	50699	155693	165721	186936	11384.7	16.42
5	青梅市	33097	51920	70954	137234	137381	1329.8	103.31
6	府中市	12032	40987	163173	216211	260274	8843.8	29.43
7	昭島市	5896	33078	75662	107292	111539	6432.5	17.34
8	調布市	8619	30852	157488	198574	229061	10614.5	21.58
9	町田市	23620	50383	202801	360525	432348	6021.6	71.80
10	小金井市	3866	19565	94448	109279	121396	10743.0	11.30
11	小平市	6068	16976	137373	172946	190005	9264.0	20.51
12	日野市	8150	22944	98557	166537	186283	6761.6	27.55
13	東村山市	7798	17099	96545	135112	149956	8748.9	17.14
14	国分寺市	4618	16375	81259	105786	122742	10710.5	11.46
15	国立市	2611	11262	59709	66719	73655	9037.4	8.15
16	福生市	5031	14066	37938	61497	58395	5747.5	10.16
17	狛江市	2679	9237	60297	74656	80249	12558.5	6.39
18	東大和市	5017	11746	46173	76355	85157	6345.5	13.42
19	清瀬市	3083	8863	51911	67386	74864	7318.1	10.23
20	東久留米市	4605	8293	78075	111097	116632	9055.3	12.88
21	武蔵村山市	7165	10775	41275	41275	71229	4649.4	15.32
22	多摩市	4111	7356	30370	148113	146631	6979.1	21.01
23	稲城市	3962	9324	30817	62806	87636	4876.8	17.97
24	羽村市	5113	8200	22783	55095	55833	5639.7	9.90
25	あきる野市	19363	28580	45067	75355	80954	1101.9	73.47
26	西東京市	6732	24290	144660	175073	200012	12699.2	15.75
27	瑞穂町	7580	12077	17687	32714	33445	1984.9	16.85
28	日の出町	5651	8518	8835	16701	17446	621.5	28.07
29	檜原村	5389	6642	5036	3560	2209	21.0	105.41
30	奥多摩町	9514	14734	11733	8257	5234	23.2	225.53
現在の多摩地域計		310,718	787,763	2,533,862	3,773,914	4,216,040	3,634.3	1,160.07
島しょ計		33,106	38,683	33,267	32,077	26,491	65.5	404.16
現23区計		3,358,186	4,177,548	8,840,942	7,967,614	9,272,740	14,796.1	626.7
東京都計		3,699,428	5,000,777	11,408,071	11,773,605	13,515,271	6,168.7	2,190.93
鳥取県(参考)		454,675	587,606	568,777	614,929	573,441	163.5	3,507.05
全国		55,963,053	78,627,000	103,720,060	125,570,246	127,094,745	336.3	377,970.75